

# キコニアレター

2026.3.1 発行 No.40

## 巻頭言

### 観察広場の活用に向けて

昨年10月に、県立コウノトリの郷公園の観察広場がリニューアルされました。谷あいの麓の湿地と棚田が連なる観察ゾーンに、コウノトリをより近くで観察できる園路や、エサやり体験もできるケージが、棚田の曲線に沿うように新設されました。

さて、放鳥20周年の昨年6月にはコウノトリの野外個体が500羽を突破し、12月末時点で552羽となりました。繁殖地も日本各地に拡がり、昨年は13府県でふ化が確認されました。このような状況を踏まえ、今後コウノトリと共生する地域づくりをさらに進めていくことが求められています。そのため、地域に暮らす人々に対して、その意義や方法などへの理解を深めて頂き、そのような取り組みに参画してもらおうきっかけとなる環境教育の場の整備と活用を検討することが必要です。

今回リニューアルされた観察広場をみると、園路とケージを挟むように、下流側には湿地、上流側には棚田が連なっています。コウノトリのエサ場となる典型的な生息環境が屋外展示されているといえます。したがって、この観察広

兵庫県立コウノトリの郷公園

KAMIHOGI Akiharu  
園長 上甫木 昭春



場は、コウノトリと共生する地域づくりへの理解を深めてもらうために、大変有意義な広場であると考えています。

さらに観察広場の現状をみると、下流側の湿地では、<sup>しゅんせつ</sup>浚渫や定期的な攪乱により豊かな生物相を回復することが必要と思われます。また、上流側の棚田では、「コウノトリ育む米」の典型的な棚田の風景が求められていると思われます。

そこで、今後の観察広場の活用に関しては、コウノトリと共生する地域づくりに向けて、地域全体の生物多様性の推進や地域振興などの視点も踏まえて進める必要があります。たとえば、コウノトリの生息環境としての湿地や棚田のあり方を体験型で学べる研修事業や観光ツアーなども検討していく時期になっていると考えられます。

今後、地域住民やNPO、民間企業などをはじめとした関係者の皆様のお知恵も借りながら、生物多様性の推進や地域振興に繋がる具体的な取り組みを早急に進めていきたいと考えています。是非とも皆様の積極的な参画をお願い申し上げます。



以前の観察広場



新設されたケージの全景



コウノトリを近くで観察する児童たち

#### コウノトリの個体数 (2025.12.31時点)

##### 飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	29	30	0	59
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	22	18	0	40
計	51	48	0	99

##### 野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	17	13	0	30
兵庫県野外巣立ち	116	124	0	240
野生個体	1	3	0	4
他府県放鳥	11	5	0	16
他府県野外巣立ち等	115	138	9	262
計	260	283	9	552

兵庫県立コウノトリの郷公園  
Hyogo Park of the Oriental White Stork

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

兵庫県立コウノトリの郷公園は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

# 韓国からのコウノトリの有精卵の移送

～遺伝的多様性を維持する取り組み～

兵庫県立コウノトリの郷公園  
エコ研究部長  
兵庫県立大学大学院  
地域資源マネジメント研究科 教授

内藤 和明  
NAITO Kazuaki



日本に現在いるコウノトリは主に海外から移入された限られた個体の子孫であるため、新たな個体を追加して遺伝的多様性を維持していくことが課題です。近年は高病原性鳥インフルエンザが発生するため、海外からの個体の移入は困難で20年以上実施されていませんでしたが、昨年、韓国の野生復帰施設である禮山（イェサン）コウノトリ公園に著者と吉沢拓祥主任飼育員が赴き有精卵5個を譲り受けて移送しました。その後、全てが孵化して成長しています。



検卵した卵を固定式孵卵器に移動  
【禮山コウノトリ公園にて 2025.5.27 著者撮影】

日本国内の飼育施設間では有精卵の移送がこれまでも実施されていますが、国を跨ぐ移送には輸出入許可などの入念な手続きを要し、長時間の移送にも工夫が必要でした。



卵携帯孵卵器を飛行機内で座席に固定し内部の温度を確認中  
【大韓航空機内にて 2025.5.28 著者撮影】

例えば、移送中も途切れずに卵を温めるために携帯孵卵器を使用します。孵卵器には温度を適切に保つ仕組みがありますが、ヒーターの入切によって微妙に変動することや温度計の値と卵自体の温度が若干異なるため調整が欠かせません。今回も、移送の前後で使用する固定式孵卵器は、安定して稼働するまで1週間程度かけて調整し、携帯孵卵器は移動中にも微調整しました。ここは職人の技の出番です。5月26日から28日の日程で現地へ赴き、飼育下の2ペアの巣から卵を回収し、有精卵であることを検卵器で確認しました。その後、固定式孵卵器で時々転卵しながら翌日に移送するまで温めました。最終日の移送では、携帯孵卵器の電源を確実に確保することが重要です。午前9時前に現地を出発し、到着して孵卵器に卵を移したときは午後10時でした。



園内で飼育されている仮親に托卵して孵化したヒナ  
【兵庫県立コウノトリの郷公園にて 2025.6.2 著者撮影】

今回の移送は、当園では初めての試みでしたが、その前年に多摩動物公園が韓国から2個の有精卵を移送し1個体が孵化しており、先導者として有益な助言をいただきました。実施にあたり、相手先施設である禮山コウノトリ公園のキム・スギョン主任研究員をはじめ関係者の全面的な協力を得ました。また、禮山コウノトリ公園には10月に当園から2個体のコウノトリを移送しました。



# コウノトリ放鳥20周年記念座談会

「コウノトリと共に歩んだ20年 ～次の20年に向けて～」



放鳥20周年記念ロゴマーク

1971年に日本の野外で絶滅した国の特別天然記念物であるコウノトリを再び野外に戻すため、兵庫県では2005年に初めて5羽の放鳥を実施しました。その後20年を経て、野外個体数は500羽を超え、生息域も全国へと広がり、野生復帰事業は新たな段階に入っています。今年度はコウノトリ放鳥20年の節目に当たることから、この機会に多くの方々々と野生復帰事業について改めて考察し、理解を深めることを目的として、記念事業の一環として座談会を開催しました。

当日は200名を超える傍聴者があり、当公園上甫木園長をはじめ、野生復帰をさまざまな立場で支えてきた関係者から報告が行われました。まず、コウノトリの保護増殖およびこの20年の歩みについての基調報告があり、続いて、市民運動としての野生復帰の取組や多くの方との支援や協力による保護活動に関する報告が行われました。

後半の座談会では、野生復帰の取組を踏まえ、人里においてコウノトリと共生していく将来のあり方について協議しました。特に、環境の回復を通じて自然と人が共生できる持続可能な地域社会を構築するため、関係機関との連携や指針づくりの重要性、担い手の育成や体制整備、さらにコウノトリが直面する新たな課題への対応など、多岐にわたる内容について貴重な意見交換が行われました。

また、催しの冒頭には、当公園に最も近く、学校敷地内に繁殖用人工巣塔が設置されている豊岡市立三江小学校の児童による、放鳥20年を記念して作曲された歌が披露され、催しに彩りを添えました。



【主催者挨拶】  
コウノトリの郷公園長 上甫木昭春



【基調報告】  
兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科教授  
コウノトリの郷公園エコ研究部長 内藤和明



【実践報告】  
日本コウノトリの会代表 佐竹節夫



【実践報告】  
上郡町でコウノトリを育む会会長 前畑京子

## コウノトリ放鳥20周年記念座談会 次第

期日：2025年10月18日(土) 13:00～15:50  
会場：豊岡市民プラザ多目的ホール「ほっとステージ」  
兵庫県豊岡市大手町4-5 アイティ7F

### ① アトラクション「合唱」

豊岡市立三江小学校児童4～6年生

### ② 主催者挨拶

兵庫県立コウノトリの郷公園長 上甫木昭春

### ③ 基調報告

「コウノトリの保護増殖と放鳥20年の歩み」

県立コウノトリの郷公園エコ研究部長 内藤和明

### ④ 活動報告

「市民運動としてのコウノトリ野生復帰」

日本コウノトリの会代表 佐竹節夫

### ⑤ 実践報告

「人のつながりがコウノトリの子育てを見守る」

上郡町でコウノトリを育む会会長 前畑京子

### ⑥ 座談会

「コウノトリとの共生環境をめざして」

#### コーディネーター

県立コウノトリの郷公園エコ研究部長 内藤和明

#### パネリスト

県立コウノトリの郷公園長 上甫木昭春

豊岡市コウノトリ共生部長 坂本成彦

NPO 法人コウノトリ市民研究所代表理事 上田尚志

日本ツル・コウノトリネットワーク副会長 大迫義人

野田市自然経済推進部長 宇田川克巳



【座談会】



【豊岡市立三江小学校児童による合唱】

# 森・川・海のめぐみ：桃嶋蜆<sup>しじみ</sup>

兵庫県立コウノトリの郷公園  
ジオ研究部長  
兵庫県立大学大学院  
地域資源マネジメント研究科 教授



川村 教一  
KAWAMURA Norihito

「但馬国全図」という古地図がある。江戸時代、安政2(1855)年の序文がある絵地図で、上郷(現在の豊岡市日高町上郷)在住の赤木勝之が編集したものである。この地図は地理書でもある。なぜならば、物産リストが地図の余白に記されているからだ。曰く、「湯嶋麦藁細工」「玄武洞灘石」「野上粳米」など工芸品、石材、農産物が挙げられているほかに水産物がある。「津山霰小鯛」「津山比目魚」「桃嶋蜆」などである。津山は豊岡市津居山の古い名称である。

霰小鯛とは塩焼きの小鯛のことらしい(注1)。焼魚の肌に見れた白い塩粒を霰に見立てたのだろうか。また、桃嶋は現在の豊岡市城崎町桃島である。桃嶋の浅瀬で採れた丸々と太ったシジミが、豊岡の人々の滋養の源になっていたことだろう。



桃島付近のようす  
寒風の中、一人の漁師が川底の貝類を漁っていた

現在の円山川で採れるのはヤマトシジミとされている。この貝は海水と淡水が入り混じった汽水の砂底に棲む。ただし、流れがよどむと泥がたまってこの種のシジミは棲めなくなるので、潮の満ち干による潮流で洗われる円山川の下流域は、生息環境としてうってつ

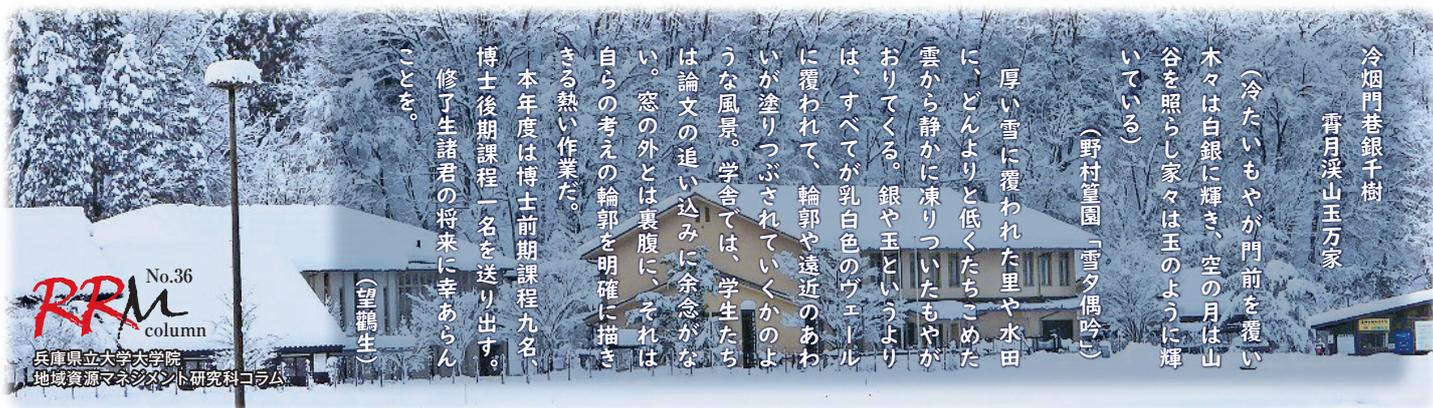
けなのであろう。円山川の砂底に棲むヤマトシジミは、何を栄養として生きているのであろうか。一般にシジミのような二枚貝類は、水や海水を吸い込み、鰓で水などに含まれていた物質をろ過してから吐き出す。こしとられた有機物は消化器官に運ばれ、そこから栄養を吸収している。円山川と同じような環境にある京都府由良川のヤマトシジミの研究では、陸の植物が分解されてできた有機物がシジミの栄養源になっていることが分かっている(注2)。



森に囲まれた円山川下流部  
中央左の集落が桃島、河口は画面中央の右奥

「森は海の恋人」という名言がある。内湾の牡蠣は、海に注ぎ込む川の源である森によってはぐくまれているという意味が込められているようであるが、川の流域における水による物質移動の視点を、印象的な表現でまとめた言葉であると思う。この言葉は三陸海岸の豊かな海で育つ牡蠣を語ったものだが、桃嶋のシジミもまた但馬の森に育まれてきたといえる。私たち研究者は、但馬と日本海における森・川・海のつながりを、皆さんと一緒にこれからも学んでいきたいと思う。

(注1) 『豊岡市史上巻』435ページ。  
(注2) 京大フィールド研ウェブサイト。



# コウノトリ野生復帰事業の着実な推進 ～繁殖のさらなる拡大と課題～

2005年の初放鳥以降、野外コウノトリは順調に増加しています。繁殖地もさらにひろがり、2025年は全国13府県 54巣から145羽の幼鳥が飛び立っていきました。また、救護卵から孵化し飼育下で育雛した6羽、巣立ち前に救護した1羽、合わせて7羽の幼鳥を解放しました。12月末現在、552羽のコウノトリが日本の空を舞っています。

## 野外個体数の増加

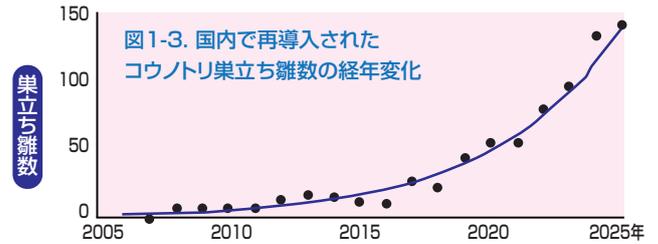
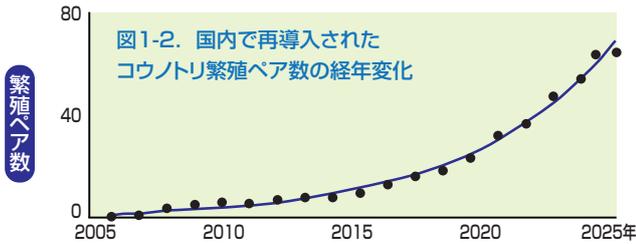
### (1) 個体数

日本の野外個体数（巣立ちした個体を計数する）は、指数関数的な増加を示しています。個体数は、巣立ちに伴う5月から8月にかけての増加と、その後の死亡や個体の収容に伴う緩やかな減少により、階段状に推移しますが、その階段が年々大きく顕著になっています。2025年は最小441羽から最大569羽に128羽増加しました。ただし、個体数の増加は新たな繁殖地域の増加によるところが大きいので、個体数の指数関数的な増加が今後も継続するとは限りません。今後の動向に引き続き着目していきます。



### (2) 繁殖ペア数と巣立ち雛数

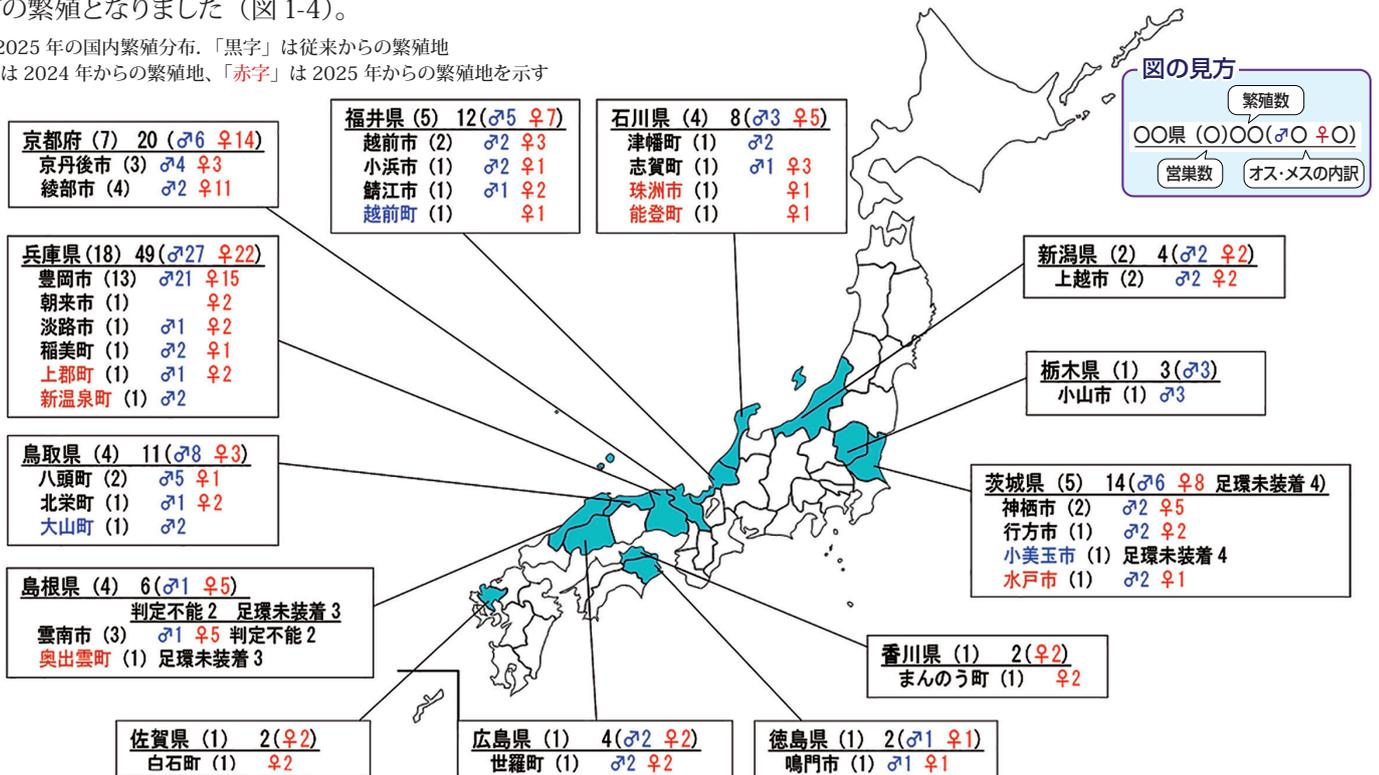
2025年は、産卵まで至った64ペア（昨年と比べ2ペア増加）が繁殖し、145羽が巣立ちました。再導入開始の翌年、2006年に初の繁殖が確認されて以降、繁殖ペア数と巣立ち雛数ともに、順調に増加しています（図1-2、図1-3）。



### (3) 繁殖分布

全国の営巣数は年々増加しています。2025年は、兵庫県18巣、京都府7巣、福井県5巣、茨城県5巣、鳥取県4巣、石川県4巣、島根県4巣、新潟県2巣、徳島県、香川県、栃木県、広島県、佐賀県各1巣の計13府県54巣まで増加しました（巣立ち確認巣）。このうち、兵庫県上郡町と新温泉町、石川県珠洲市と能登町、島根県奥出雲町、茨城県水戸市は（市町村単位で見ると）、初めての繁殖となりました（図1-4）。

図1-4. 2025年の国内繁殖分布。「黒字」は従来からの繁殖地  
「青字」は2024年からの繁殖地、「赤字」は2025年からの繁殖地を示す



## 各種イベントを実施しました



4月26日(土)  
のぞいてみよう!  
コウノトリの診療所



4月19日(土)～5月18日(日)  
「世界獣医の日」  
パネル展



5月4日(日)  
特別ガイドウォーク  
～春の郷公園を満喫しよう～



5月5日(月祝)  
親子でチャレンジ!  
コウノトリへのエサやり体験



5月10日(土)～6月28日(土)  
巣塔観察ガイドウォーク



7月20日(日)  
獣医師から学ぶ  
コウノトリの診療所



7月26日(土)  
サマーキッズデー



8月3日(日)  
「約束のケージ」ガイドウォーク  
～コウノトリ保護増殖の歴史にふれよう～



8月9日(土)～11日(日)  
山陰海岸ジオパーク  
「砂の世界をのぞく展」



9月13日(土)  
コウノトリへのエサやり体験  
～野生復帰の舞台裏を知ろう～



9月21日(日)  
秋の郷公園の魅力発見!  
特別ガイドウォーク



9月24日(水)～26日(金)  
大阪・関西万博  
ひょうごフレンドシップウィーク



10月18日(土)  
「放鳥 20 周年記念特別企画」  
座談会



10月19日(日)  
「放鳥 20 周年記念特別企画」  
郷公園デー  
～非公開エリア特別公開～



11月1日(土)～30日(日)  
「放鳥 20 周年記念特別企画」  
パネル展



11月20日(木)  
放鳥 20 周年記念植樹



12月20日(土)～2月22日(日)  
「川柳」で郷公園や  
コウノトリの魅力発信!



12月21日(日)  
郷公園が贈る  
「クリスマスプレゼント」



12月21日(日)～3月1日(日)  
コウノトリの郷公園を彩る  
冬のイルミネーション



1月24日(土)～2月15日(日)  
「世界湿地の日」  
パネル展

## 「ふるさとひょうご寄附金でコウノトリ野生復帰プロジェクト」を応援してください。

当園では全国の皆さまのご協力をいただきながら、コウノトリの保護・増殖と野生復帰に取り組んでまいりました。

近年では、飛来地や繁殖地が全国的にひろがっており、当園による技術的支援の必要性がますます高まっています。また、野外個体数の増加に伴い、救護が必要な個体の増加や近親婚の発生といった新たな課題にも対応していく必要があります。さらに、遺伝的多様性を確保するためには、国内外の施設との一層の連携が重要となっています。これらの取組を着実に進めていくためにも、本プロジェクトへのご賛同とご支援を心よりお願い申し上げます。本プロジェクトの詳細については、郷公園ホームページ及び「兵庫県のふるさと納税『ふるさとひょうご寄附金』」のページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください

申込方法

### 1. 兵庫県のふるさと納税「ふるさとひょうご寄附金」・「兵庫県ふるさと納税ポータルサイト」からの申し込み

各社のサイトからの申し込みが可能です。申し込みの最終に皆様からの寄附金を活用させていただくコース・プロジェクトを選択(記入)していただけます。その際に「寄附金の活用コース1～17」⇒「16 県立美術館・博物館等応援コース」⇒「コウノトリ野生復帰プロジェクト」または「コウノトリの郷公園」とご入力(ご記入)ください。

### 2. 寄附申出書による申し込み

ふるさとひょうご  
寄附金 からの申込み



兵庫県ふるさと納税  
ポータルサイトからの申込み

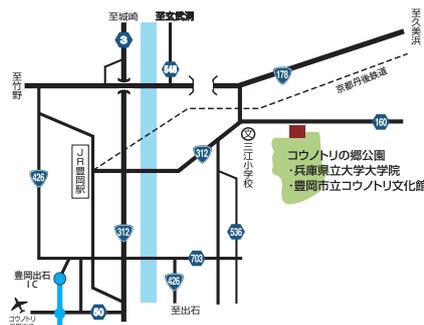


または  
寄附金申出書  
による申込み



## ACCESS!

- ◎ 神戸から[2時間10分]  
姫路から[1時間45分]  
最寄り豊岡出石ICから約20分
- ◎ JR山陰本線「豊岡駅」から4.5km  
全但バス(コウノトリの郷公園・  
法花寺・下の宮行き)
- ◎ コウノトリ但馬空港から約12km



## 編集後記

コウノトリは 1996 年、池島・福万寺遺跡(大阪府東大阪市・八尾市)において、弥生時代前期(約2,400年前)の足跡化石が発見され、太古からの生息が明らかになっています。今年、放鳥から20周年を迎えるとともに、日本からコウノトリが姿を消してから54年目となります。コウノトリからすれば、私たちの歩みはほんの一瞬にすぎないのかもしれない。しかし現在、日本の空には550羽を超えるコウノトリが舞い、止まっていた時は再び確実に流れ始めています。未来を見渡す節目の年にあたり、コウノトリをはじめとする自然と共にある豊かな歩みが、悠久の時を超えて受け継がれていくことを心より願っています。

(社会教育推進専門員 岡田厚志)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間: 9:00 ~ 17:00

休園日: 毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日)

12月28日~1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <https://satokouen.jp/>

facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/>

Instagram: [https://www.instagram.com/hyogo\\_satokouen/](https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/)



HP

FB

Instagram